

医療薬学5（免疫アレルギー、感覚器、皮膚）

責 任 者・コーディネーター		病態薬理学講座臨床医化学分野 野口 拓也 教授	
担当講座・学科(分野)		病態薬理学講座臨床医化学分野	
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義 26 時間（13 コマ）
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

・ねらい

医療薬学5では、代表的な免疫アレルギー疾患、および感覚器・皮膚における代表的な疾患の病態と治療について解説することにより、薬物治療戦略、使用薬剤に関する代表的な副作用と適用上の注意点、薬物相互作用について説明できるようになる。

・学修目標

- 1) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
- 2) シェーグレン症候群などの臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
- 3) 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎/皮膚筋炎などの全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
- 4) Stevens-Johnson（スティーブンス-ジョンソン）症候群、中毒性表皮壊死症、薬剤性過敏症症候群、薬疹について、原因薬物、病態（病態生理、症状等）および対処法を説明できる。
- 5) 抗炎症薬（ステロイド性および非ステロイド性）および解熱性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。
- 6) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。
- 7) 免疫抑制薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。
- 8) 緑内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
- 9) 白内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
- 10) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
- 11) 結膜炎（重複）、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症について概説できる。
- 12) めまい（動揺病、Meniere（メニエール）病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
- 13) アレルギー性鼻炎（重複）、花粉症（重複）、副鼻腔炎（重複）、中耳炎（重複）、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎（重複）、喉頭蓋炎について概説できる。
- 14) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
- 15) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

- 16) 褥瘡について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
- 17) 蕁麻疹（重複）、薬疹（重複）、水疱症（重複）、乾癬（重複）、接触性皮膚炎（重複）、光線過敏症（重複）について概説できる。
- 18) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。

・薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）対応項目

D-2-7 皮膚・感覚器系の疾患と治療薬
D-2-10 免疫・アレルギー系の疾患と治療薬

・学修事項

- (1) 花粉症、アナフィラキシー
(2) 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、拒絶反応、移植片対宿主病
(3) アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、褥瘡
(4) 緑内障、白内障、加齢黄斑変性症、メニエール症候群、めまい
(5) 1)-4)の治療薬

・この科目を学ぶために関連の強い科目

機能形態学、生化学、細胞生物学、薬理学

・この科目を学んだ後につなげる科目

症例・処方解析学

・講義日程

（矢）西 103 1-C 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
9/4	金	2	臨床医化学分野	野口 拓也 教授	アレルギー・免疫疾患の病態と治療 1 1. アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 2. 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎/皮膚筋炎などの全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 【ICT (moodle)】 事前学修：これまでの学修した関連科目の資料等を見直しておくこと。

					事後学修：講義で説明した資料、問題等を用いて復習すること。
9/11	金	3	臨床医化学分野	野口 拓也 教授	アレルギー・免疫疾患の病態と治療2 1. シェーグレン症候群などの臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 2. Stevens-Johnson（スティーブンス-ジョンソン）症候群、中毒性表皮壊死症、薬剤性過敏症症候群、薬疹について、原因薬物、病態（病態生理、症状等）および対処法を説明できる。 3. 抗炎症薬（ステロイド性および非ステロイド性）および解熱性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。 4. 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。 【ICT (moodle)】 事前学修：これまでの学修した関連科目の資料等を見直しておくこと。 事後学修：講義で説明した資料、問題等を用いて復習すること。
9/25	金	2	臨床医化学分野	野口 拓也 教授	アレルギー・免疫疾患の病態と治療3 1. 関節リウマチについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 【ICT (moodle)】 事前学修：これまでの学修した関連科目の資料等を見直しておくこと。 事後学修：講義で説明した資料、問題等を用いて復習すること。
10/2	金	2	臨床医化学分野	野口 拓也 教授	感覚器疾患 1（耳鼻咽喉科疾患-1） 1. アレルギー性鼻炎、花粉症および副鼻腔炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 【ICT (moodle)】 事前学修：これまでの学修した関連科目の資料等を見直しておくこと。

					事後学修：講義で説明した資料、問題等を用いて復習すること。
10/9	金	2	臨床医化学分野	野口 拓也 教授	感覚器疾患 2（耳鼻咽喉科疾患-2） 1. アレルギー性鼻炎、花粉症および副鼻腔炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 【ICT (moodle)】 事前学修：これまでの学修した関連科目の資料等を見直しておくこと。 事後学修：講義で説明した資料、問題等を用いて復習すること。
10/16	金	2	臨床医化学分野	野口 拓也 教授	感覚器疾患 3（耳鼻咽喉科疾患-3） 1. めまい、動揺病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 【ICT (moodle)】 事前学修：これまでの学修した関連科目の資料等を見直しておくこと。 事後学修：講義で説明した資料、問題等を用いて復習すること。
10/23	金	3	臨床医化学分野	野口 拓也 教授	感覚器疾患 4（耳鼻咽喉科疾患-4） 1. 難聴、中耳炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 【ICT (moodle)】 事前学修：これまでの学修した関連科目の資料等を見直しておくこと。 事後学修：講義で説明した資料、問題等を用いて復習すること。
10/30	金	2	臨床医化学分野	野口 拓也 教授	感覚器疾患 5（緑内障治療薬） 1. 緑内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 【ICT (moodle)】 事前学修：これまでの学修した関連科目の資料等を見直しておくこと。 事後学修：講義で説明した資料、問題等を用いて復習すること。
11/13	金	4	臨床医化学分野	野口 拓也 教授	感覚器疾患 6（緑内障治療薬-2）

					1. 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 【ICT (moodle)】 事前学修：これまでの学修した関連科目の資料等を見直しておくこと。 事後学修：講義で説明した資料、問題等を用いて復習すること。
11/20	金	3	臨床医化学分野	野口 拓也 教授	感覚器疾患 7 (白内障＋黄斑変性治療薬) 1. 白内障、加齢性黄斑変性およびその他の眼科疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 【ICT (moodle)】 事前学修：これまでの学修した関連科目の資料等を見直しておくこと。 事後学修：講義で説明した資料、問題等を用いて復習すること。
11/27	金	2	臨床医化学分野	野口 拓也 教授	皮膚疾患 1 1. アトピー性皮膚炎および蕁麻疹について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 【ICT (moodle)】 事前学修：これまでの学修した関連科目の資料等を見直しておくこと。 事後学修：講義で説明した資料、問題等を用いて復習すること。
12/4	金	3	臨床医化学分野	野口 拓也 教授	皮膚疾患 2 皮膚真菌症、褥瘡および薬疹 1. 皮膚真菌症、褥瘡および薬疹について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 【ICT (moodle)】 事前学修：これまでの学修した関連科目の資料等を見直しておくこと。 事後学修：講義で説明した資料、問題等を用いて復習すること。
12/11	金	3	臨床医化学分野	野口 拓也 教授	演習 1. 医療薬学 5 の内容を説明できる。

					【ICT (moodle)】 事前学修：医療薬学5の授業で使 用した授業資料の該当範囲を確認し、 要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義で説明した資料、問 題等を用いて復習すること。
--	--	--	--	--	---

・ディプロマポリシーとこの科目の関連

1. 薬剤師として医療に携わる職業であることを理解し、高い倫理観と豊かな人間性、及び社会の変化に柔軟に対応できる能力を有しているもの。	○
2. 地域における人々の健康に関心をもち、多様な価値観に配慮し、献身的な態度で適切な医療の提供と健康維持・増進のサポートに寄与できるもの。	
3. チーム医療に積極的に参画し、他職種の相互の尊重と理解のもとに総合的な視点をもってファーマシューティカルケアを実践する能力を有するもの。	
4. 国際的な視野を備え、医療分野の情報・科学技術を活用し、薬学・医療の進歩に資する総合的な素養と能力を有するもの。	○

・評価事項とその方法

定期試験（100％）により評価する。なお、定期試験はMCQ形式を基本とするが、数問の論述式問題を含む場合がある。

学修事項	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1-5	1、4				100			100
合計					100			100

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	薬がみえる vol.1 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2021
教	薬がみえる vol.2 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2023
教	薬がみえる vol.3 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2023
参	病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2018
参	病気がみえる vol.12 眼科 第1版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2019

参	病気がみえる vol.13 耳鼻咽喉科 第1版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2020
参	病気がみえる vol.14 皮膚科 第1版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2020
参	治療薬マニュアル 2026	矢崎 義雄 監修、上野 文昭、越前 宏俊 編集	医学書院	2026

・特記事項・その他

・予習復習のポイント

予習に関しては Moodle で指示する。復習に関しては、前回の資料を確認して、資料にある演習問題を解くこと。これらの学習には各コマに対して、事前に 15 分、事後に 45 分程度を要する。更に、定期試験前に 6 時間程度の総復習の時間を確保する必要がある。

・試験や課題に対するフィードバック

定期試験に関しては、補講にてフィードバックを実施するので、各自の苦手な部分、学修が不十分であった部分を確認すること。

・当該科目に関連する実務経験の有無 無

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン (Apple MacBook Air)	1	スライド投影のため